

石灰石	—	三	—	三	—	三
合計	三六	—	七〇	—	七六	七三

銑鐵生産費に關して或る専門家が實例より推定せる結果は次の如し。

原料 (工場着價格)	三五、六
副産物 控除	九、六
賃銀修繕エスタブリツシユメント	一三、〇
計銑鐵一噸當り爐前原價	三九、〇
カルカッタ迄の運賃及積込費	四、〇
計カルカッタ沖渡し價格	四三、〇
カルカッタ英國間運賃	二〇、〇

故に英國人又は大陸迄運びて六三志なり口錢を七志と見ても英國又は大陸に於て競争可能なり。

鋼材 (軌條、ジョイスト、シエープス等)も之れに相當する低き價格にて製造せられ大陸、英國、合衆國の生産費に比して有利なるを以て東洋及び南亞米利加市場に於ける競争は烈かるべし然れども印度に於ける需要は其の生産を今後相當期間に亘り吸収すべし。印度に於ける一九二〇—一九二一年の軌條、ガーター、型鋼等の輸入數量は四三〇、〇〇〇噸 (此内には政府經營に係る鐵道用軌條其の他の輸入を含まず)にして其の年に於ける印度の生産は二〇〇、〇〇〇噸以下なり早晩英國より印度に送らるる軌條、ガーター、型鋼の需要は止るべく次の十年間に於ては西班牙鑛購入に代りて印度銑の輸入を見るべし。

要するに將來印度は世界鐵鋼業界に雄飛するに到らん。

(完)

工業不況の原因

恐慌の爲に起つた不況は此の論説の主眼とする處ではない産業國民が知らんと欲してゐるものは認むべき原因がなくして不況が現はれるのは如何なる力に依るものかと云ふ事である、斯る不況は産業繁榮期に於て勃然として偶發し、凡そ繁榮の現然たる強大なる力を蹂躪し壓倒してしまふ。今や斯る恐ろしい禍根は國際的に不思議に擴がつて滲み亘つて國中に噛み附いてしまつた。産業的活氣を暗黒に引き入れて勞働者の所得を一年に一〇億弗減少させてゐる。斯る不思議な産業的不況の眞の根本の原因は何んであるか、此の恐ろしい原因は即ち高價なる建築費であると謂ひたい。

鐵は一物質に過ぎないが此物質の影響を斯くも重大視するのは鐵を熟知しない人に取つては一見理なきものと見えるかも知れない、然し一度之に注意すれば鐵は如何に廣く凡ての物に行亘つてゐるか分る、家の内外を視ても、人工に依る物ならば凡そ鐵なくして出來たものはない、食物を生産調理するにしても衣類を調製するにしても、家屋を建築するにしても殆んどあらゆる階程に鐵を用ひてゐる、地下を走る水道管、瓦斯管、油輸送管を始め地表の鐵道網、平時戦時の運搬車は殆んど全く鐵で出來てゐる、斯く文明の一切の事業は年を追うて鐵の必要を増加して行くのである、一國の製造工業機械工業から鐵を奪ひ去れば其國の事業は總て痲痺するに至るだらう。

アダム、スミスは百年以上も前に大著「國民の富」の中で既に「高價は消費を阻害する」と云つた、其れ以來世人は理

論的に其れを信じてゐるが、然し實際上には之を信じないの
であつて、只物品が即時引渡で賣買される場合に其れが實證
されるのを見るだけの事だ。即時引渡で賣買される場合には
價格が騰貴すれば、需要と賣れ行きとの減退が同時に起るか
ら其れを認め得たのである。建築の場合には非常な相違があ
る、産業の好況時代に於ては價格が騰貴するにつれて建築工
事が盛んになり、材料も盛んに取引される計りでなく、其の
價格が五〇パーセントから一〇〇パーセントに騰貴してから
も數ヶ月間其の盛況を持続する、そこで世人は物價が騰貴し
ても其れが爲に建築が阻害されないと信じる。然し之は皮相
の見であつて高い値段が直接取引の購買品に附けられたにし
ても又は紙上契約に由る將來引渡品に附けられたにしても、
既に其時に於て高い値段が其品の取引を阻害する力を持つて
ゐる事實を認め得ないのである、其れ故に一國の製造工業機
械工業の大半を占めてゐる建築、鐵道敷設、造船其他の大な
る建築工事に使用される材料即ち鐵材、挽材木、煉瓦石材、
セメント等の消費は、價格騰貴のために阻害されたとは信じ
なう。

一國の工業は戦争、流行病又は經濟的恐慌の如き大なる災
禍の外何者も之を阻碍し得ざる或る大なる力の結果であると
云ふが如き漠然たる印象がある様である。其れ故に認むべき
原因なくして不況が起る時公衆は、何か其れを惹起する不思
議な大なる力が潜んでゐる様に考へる。然し注意深く之を穿
鑿すれば一國の産業は個人個人の動作を總合したものに過ぎ
ない事が判る、一個人の動作は一國の産業に取つては些細な
ものにして丁度大洋に於ける一滴の水に等しいものなるが、

大洋は一滴一滴の水が集成したものに過ぎない、一個人が自
己のため又は自己の支配下の事業のために、永久的改良を施
すのに費用を見積るには、先づ其設計と其仕様を定めて、之
に由つて其工業請負に對する指値を求め、指値を受取りそ
うして自己のため又は自己の支配せる會社のために最も有利
であると思はれる方法を決定して其れから動作する。其動作
が何等かの指値を受納する動作であれば、産業的繁榮の大洋
は猶一滴の水を加へられて、其れ丈け其の容積を擴大するの
である、若し其の動作が或る現在の事業を緊縮し、又は放棄
するに在るならば、其時には産業的不況の大洋は一滴の水を
受けて暗黒の度を増すことになるのである、斯る一個人的動
作は局外者には餘り知られないだらう、而して此の時に當時
に於ては大洋に落ちた一滴の水位にしか考へられまい。けれ
共繁榮の潮を作るべき強い力を成すものは單に斯る微弱な動
作の集合に外ならない、而して國內全體で數萬、數十萬の人
が何れも皆同じ様に同一の動機が動作しつゝあるのだが其當
時之を認める人は一人もない様に見える。

其責任は何處に存してゐるか

種々建築工事の延期又は放棄に對する眞の責任は何處に存
するかに就いて誤解があつてはならぬ。其の責任は製造業者
側にはない、即ち製造業者は勞力費、材料費に高價を支辨す
るも亦廉價を支拂ふも其れに關する所ではない。製造業者は
製品が充分な利潤を以て賣れゆく間は、全能力を盡くして限
度迄製品を市場に出してゆく、建築師、設計者、勞働者又は
機械工にも責任はない、彼等は必ずしも勞働を好むから働く
のではなく、唯金を取つて物を買ふために働くのである。請

負師にも責任はない。彼等は利益を得やうとする慾に刺戟されてゐるに過ぎない。凡そ此等の個人は、通例高價を以て建築工事に従事したいと希ひながら廉價で其れをやりたいとも希ふのである。其處で物價騰貴に依つて産業が阻止される場合には其れに對する實際上の責任は全く財布の紐を掴んでゐる個人即ち豫期した改良工事の費用を支出すべき個人に存するのである、價格が低廉である時其れが騰貴するだらうと見れば斷然驕進する者は此人である、價格が騰貴してゐる時其れが下落するだらうと見れば金を確かに握り絞めて其豫期した改良工事を延期し放棄しやうと決心する者は此人である。

斯る人が右の様に決意する時には「人性の器官的缺陷」にも「天體の影響」にも「心的波動」にも「太陽の黒點」にも支配されるのでなく、唯簡單にして飾氣なき事業上の思考のみに依つて動かされて、其に基いて動作するのである。一個人が其期待してゐた建築を延期しやうと決定する時其決定を促した動機は既に恰く國中に瀰蔓してゐて、彼の此決心は數十萬ある同様の動作中の唯一つに過ぎないので斯る個々の動機が集れば二三ヶ月も経つ内に産業不況の極點に達するのであるが自分の決心の當時に於て斯る事を悟る人は一人もない。其處で此等の不思議な産業的不況の原因を探るに當つて、先づ産業界の或る種類の個人、即ち財布の紐を掴む個人の動作を制御する動機及び條件を見出す必要がある、此れが分れば好況及び不況の原因が一目瞭然と知られるのである。

産業の基をなす動機

凡そ人間が建設的企業を始め、經營し其れを擴張して行く動作を刺戟する有力な動機は即ち利益を得やうとする本能的

慾望である、大都會に於て多數の住宅及び共同家屋を建築するもの、市町村に於て倉庫、工場、爐、製造工場を建築するもの、到る處の鐵道、導管、電信線、船、海底電線を敷設するもの、其の企ては何れも此の動機から發してゐる。勿論猶、産業、生産物に貢獻する動機は外にもある、慈善、公共心、愛郷心其他此類のものも、普通教會、圖書館、病院及び住宅の一部分の建築を企てる動機をなすものであるが、斯る例外のものには僅か一小部分をなすに過ぎない、其上に政府の統計が示す處に依れば、一九〇〇年度に於て合衆國の家族數は一六、二八七、七一五であつて、其内自分の家に住むものは七、二五九、三六二家族であつた、其れから又都市に於て家主が占有してゐる住宅ははじめ貸家とする目的又は利殖の目的を以て資本家又は營業的建築家に依つて、大々的に計畫建築されたものである、例へば物價の低廉期に於て、先見を有する投資家は今が物價の最低に達して物價の騰貴が差迫つてゐる事を確信すれば利殖財産を多數に至急建築し始める。之が重大にして且つ大なる動機である。此の力は漸次擴大して行くものであつて、唯其れと同じ強き力に依つてのみ制御される之に反して物價騰貴期に於て先見を有する投資家は建築費が嵩じて來て他の方面への投資が寧ろ有利であると云ふ見込がつけば直ちに建築を止めて他の方面に投資し、再び價格が低下する迄待つのである。斯う云ふ風に資本家は所有する金を以て出來得る限り多くの利殖的財産を獲得しやうとしてゐるのである。

産業不況の眞の原因

投資しやうとする金を以て能ふ限りの物を得たいとする本

能的慾望は、小賣店の賣臺を取圍んでゐる群集にも亦千百萬長者にて机の前に坐りつゝ、建築指値の受否を決定する人にも同様に働いてゐるものである。小さき事には非常に強く而して有効である動機も、大なる事に於ては弱くなり且つ効果を低下するか、そうでなければ此動機は物價の低廉なる時に當つて建築の大増加を刺戟する原因となり、物價騰貴の時に當つて建築の大減少を刺戟する原因となるのである、アダム、スミスが百年以前に消費の盛衰上物價の高低が及ぼす効果を語つたが、其れは大企圖の場合にも小さい事に關しても眞實であるが、之は人生必需品に於て顯著であるよりは、投資、建築に於ては特に顯著なものである。

繁榮は製造者の生産能力及び販賣慾望に依るものに非ずして財布の紐を握む人をして買はしめる様な價格を以て賣る能力と慾望とに依るものである、過去の經驗に徴するに凡そ人々は物價が低廉であつて、買込めば利益があると信ずる間は買ひ續ける。而して其の間繁榮が續いて行く。然るに物價が騰貴して最早買込めば損を招くと思はれる様になれば直ちに買込を停止する。若し之が事實であれば、建築費の高價といふ事は、即ち外來的的の認むべき原因なくして、世界の産業國を襲ふた不思議な産業不況の眞の、本來の根本の原因を爲すのである。破格の需要を伴ふ好況時代には高い物價は何時迄も高く通すもの、投資せる資金は安全で、其利益は大なるものであると信じて、産業は假令費用が高くとも益々規模を大にして便宜を多くする。斯る冒険家の中で或る者は、或る幸運に由つて、其の結果都合が佳くあつたかも知れぬ。然し大多數の人が一たび不況が來れば忽ち悲境に陥るのを見て

も、大部分の冒険家の仕事が誤つてゐた事が分る。多分斯る不幸の事柄は能く聞く「愚者が奇麗な家を作つて賢者が其れに住ふ」といふ言葉の説明となるであらう。多分其の賢者は建築費の破格に高價な時に金を保持してゐて、愚者が考へなしに建てたが最早必要に迫られて其れを賣らねばならなくなつた時に之を買込むのだらう。

提唱して拒絶された例

一九〇〇年の春、二人の紳士が紐育の或る俱樂部で夕餉を俱にした。其一人はAと呼んで、後日、米國鋼業協會に併合せられた或る大きな製鋼團體の長である。他の一人はBと呼んで、物價の騰貴は産業的繁榮を阻止すると云ふ理論的確信者である、Aは次の様な事を語つた。「自分の會社は其の持殊事業に於て、合衆國製出鋼年額の十分の九を産出する、而して註文を受けた量は、自分の工場は勿論のこと競争者の工場が全能力を擧げて一年間には製出する事が出来ない位である、そこで値を引上げやうと思つてゐるが、他の工場が仕事を引受け切れなくなれば、註文者は失張り自然に自分の工場へ來て、此方で思ふ儘價格を支拂はねばならない」と。Bは其れに答ふるに次の様に語つた。「君は成程確かに不思議な力の持主であつて、疑ひなく價格を思ふ存分騰貴させられるそうすれば註文人は君の定めた價格を支拂ふか、其れ共企てた建築を中止せねばならない。然し君の強き力をも計畫をも全然崩潰せしめる或る力がある。即ち之れは財布の紐を握んでゐて其の建築事業を企て、其費用を支拂ふべき一個人の決心である。君は斯る人に強ひて建築させる事が出来ない、此人が建てまいと決心する時には、彼に君の品物を賣る譯にゆ

かぬ。君の生産物は生活の必需品ではない。人は食ふ事を止められぬが建てることは止められる。君の価格は一八九七年及び一八九八年の價格より十割騰貴してゐる。建築材料の價格は過去七十年に於て同様な騰貴をしたが、其れは皆建築を阻止した。而して今君並びに他の製造業者が現在の價格を固持する時には建築は終に阻止される」と。AはBの答を聞いてゐる間ナイフもフォークも下に置いてゐたが。話が終つてからも猶沈黙を續けた。Bは餘儀なくAに何を其んなに一心に考へ込むかと尋ねざるを得なかつた。そこでAはテーブルをはたと打つて曰ふに「何を匿さう、君の云ふ所は道理だと考へてゐるのだ、實は會社が入札したものは十一月、十二月分までも大抵其のまゝ回答が來ない。それから註文拒絶の旨回答して來た分に其拒絶の理由を述べてあるが、其れは大概物價が常態に低落する迄待たうと決定したと云ふ趣意を述べてゐる。」Aは事務所へ歸つてからは是非とも得意を取戻す様事務員に訓示しやうと言つた。此の談話の當時建築材料價格は數ヶ月此の破格に騰貴してゐて、製造業者への將來引渡註文は非常に少かつたのである。此二人の紳士は數ヶ月經て再會したが、其時には價格は既に甚しく低落してゐた。AはBと握手する時次の語を發した。僕は決心通り値下げを斷行したが成功だつた。僕は餘儀なくされて、價格を非常に下げたのだが、其れて工場は將來も長く充分な仕事がある。」と。

何うして不思議があるか

建築費が大暴騰した後に建築契約の大減少するのに何の不思議があるか。英國銀行が大いに利率を引上げた時に借手が大いに減少するのは別に不思議のある筈がない。彼も此も其

れは單に刻薄な法則の自然的効果である。太陽の黒點及び心的波動其他不思議な自分に理解せられないものに支配されて工場、船、鐵道を建設し其れに資金を投ずる者があるか、熟考の結果其れから大なる利益を收め得るから平素貯へた金を支出するのではないか、建築費が非常に高くして、其れを企てるとも相等に大なる收益もなく又利益も無いと思ふ時に、斯る投資契約は澁滞しないだらうか。

英國、合衆國、獨逸、佛國、自耳義を世界の工業國にしたのは鐵の産出であつた。鐵が此等の國を工業國にしたとすれば、鐵に於ける大隆盛が、鐵に伴ひ又其に頼るもの、隆盛に影響する事は當然ではないか。其れ故に鐵價の暴騰が凡ての建築要素に影響して、總建築費が十割も増加すれば、先見ある投資者が其れに影響されるのは理あることではないか。趨勢の致す處、己むを得ない建築が非常に澤山あるが、其れは物價の高低に拘はらず實行せねばならないが、好況を來した驚くべき建築の大部分は趨勢の必要より起つたものではない其れは單に利益が目的で企てられたもので、若しも其れを建築した處で利益の見込がなければ、直ちに中止して其の部分の建築を止めてしまふ。其うなれば其の建築に關係する幾百千の小さい物の生産が停止されて、茲に産業不況が事實として出現するのである。

過去半世期に於て、世界の人は製造國の工業に發生する好況、不況の不思議な原因を確認しやうと努めて來たのであるが、彼等は之がため凡ての物即ち眞らしい物も、不合理な物も、地上に現はる物も天に現はるものも一切之を提示したけれ共斯う提示した所謂原因なるもの、數百あるが中に吟味の

結果眞に原因と謂はれ、資格の有るものは唯一つしかない。其の一つの原因といふのは即ち其作用が普く認められた動機と相違なく確實に照應する所の普く認められたる法則の自然的结果である。此の動機は常に存在するもので、色の白、黄、黒を問はず何れの國民にもあるものである。これは何の國にも毎日存在する。亦之は大取引にも、小取引にも存在してゐるものであつて、即ち利益を得たいといふ本能的欲望である。之は人間を統御する力の内で常に働くものゝ一である。事業盛衰に就いて主張さるゝ原因多しと雖も、廣く云へば、何時でも何處でも凡ての人を制御する力の一は常に此の一動機である。個々の事業、行爲を支配するものは、此の動機であると云ふ事は、何人も疑を容れない所である、個々の事業、行爲の總合をば統御しないと云ふ理由があるか。

既に一八六二年に於て、後年呼ぶ所の「ブーム」(俄景氣)が始つた。鐵の需要は僅かな月の間に二倍に増加した。其れで斯る需要を充すのは不能であつたから、價格は非常に暴騰した。一八六一年及び一八六二年に於て事業界を不況にした戦争は、一八六三年及び一八六四年に於て事業界を好況にした。何となれば一八六四年の數ヶ月には鐵飢饉があつた。屢々其日の午后から翌朝迄の間に噸當り五弗も騰貴した事があつた。數多の工場は晝夜操業しても間に合はない位の需要があつたのに鐵不足のため續々工場を閉鎖しなければならぬ様に成つた。此の緊急を凌ぐために假令少量でも欲しいと鐵商に嘆願した一つの特別例として若干の消費者は餘裕の鐵を先取りする權利を設定したいばかりに、鐵商に數週間前から金を委託した又或る消費者は若し鐵商が鐵を受け入れた場合に

優先權を自分に與へて呉れるならば先取引全部を其鐵商に握らせ様と契約した。又或る消費者は鐵商が鐵を供給して呉れなければ將來彼等と取引をしないと脅喝した。スコッチ銑鐵は一八六四年にはもう紐育に於ては三〇割騰貴した。第一號鑄物用銑はフライデルフィアに於ては二九・五割、シンシナチイに於ては三四・四割騰貴してゐた。暫くの間は内國製品でも輸入品でも、何でも買上げたが、然し其の後一八六三年八月の三五弗から翌年の八月の八〇弗まで騰貴して形勢が一變した。戦用の建築製造は繼續したが、他の目的に對するものは殆んど行詰に立ち至つた。鐵の消費は一八六二年の七二五、〇〇〇噸から一八六四年の一、一一六、〇〇〇噸に増加したが、一八六五年には八八二、〇〇〇噸に減少した。建築は非常に衰運に陥つた。建築材料の在庫品は、忽ち凡ての方面に山積して鐵價は一〇ヶ月も經たぬに五割下落した。

世人は斯る著しい出來事は皆南北戦争の然らしめた所だとしてゐた。疑ひもなく戦争は大影響を及ぼしたが然し英國、佛國、獨逸、白耳義には戦争はなかつた。而も獨逸を除いて其他の諸國は産業不況で痛く苦しんだ。獨逸の餘り苦しまなかつたのは、當時獨逸の工業は餘り發展してゐなかつた。従て價格は餘り大暴落しなかつたのである。産業不況は英國、佛國、白耳義三國には非常に酷いものであつて、此の状態は英國、合衆國、佛國、獨逸に於て數年間續いた。此不況中一八八六年に英國、佛國に於ては財政恐慌があつたが之れは前述の不況が一年間續いてからの事であつた。猶合衆國、獨逸、白耳義には、不況が續いてゐたけれ共恐慌は來なかつた。此の事は以上五箇國共通であつて且つ恐慌とは全く關係のな

い或る不況原因が此等各國に同時に作用してゐた事を示してゐる。

(Industrial Management. 二一年六月一日)

猶次に參考として銑鐵價格の歴史的記録を附す。

銑鐵價格の歴史的記録

此の記録は銑鐵價格が非常に騰貴すれば、必ず其後には産業不況が現はれる事を示すものである。

紐育に於ける一八二五年から一八八二年に至る間スコッチ銑鐵の最高、最低價格は國會圖書掛エインスウオース、アル、スポーツフォード著、米國曆書に基づき、一八八六年迄の不景氣の年度は、一八八六年出版の米國勞働委員年鑑第一號に基づきものである。

高	最低	最高	年度	備考
不景氣	三五・〇〇	七五・〇〇	一八二五	一一四パーセント騰貴
	五〇・〇〇	七〇・〇〇	一八二六	
	五〇・〇〇	五五・〇〇	一八二七	
	五〇・〇〇	五五・〇〇	一八二八	
	四〇・〇〇	五五・〇〇	一八二九	
	四〇・〇〇	五〇・〇〇	一八三〇	
	四〇・〇〇	四七・五〇	一八三一	
	四〇・〇〇	四七・五〇	一八三二	
	三七・五〇	四七・五〇	一八三三	
	三七・五〇	四八・〇〇	一八三四	
	三八・〇〇	四二・五〇	一八三五	
	三八・〇〇	六二・五〇	一八三六	八六パーセント騰貴
	四〇・〇〇	七〇・〇〇	一八三七	
	三七・五〇	五五・〇〇	一八三八	
	三七・五〇	四五・〇〇	一八三九	
	三二・五〇	四〇・〇〇	一八四〇	

高	低	高	低	高	低	
不景氣	三二・〇〇	三七・五〇	一八四一	三〇・〇〇	三五・〇〇	一八四二
	二二・五〇	三五・〇〇	一八四三	三〇・〇〇	三五・〇〇	一八四四
	三〇・〇〇	三五・〇〇	一八四五	三〇・〇〇	三五・〇〇	一八四六
	三五・〇〇	四二・五〇	一八四七	三五・〇〇	四二・五〇	一八四八
	二五・〇〇	三七・五〇	一八四九	二五・〇〇	三七・五〇	一八五〇
	二二・五〇	二七・五〇	一八五一	二二・五〇	二七・五〇	一八五二
	一九・〇〇	二五・〇〇	一八五三	一九・〇〇	二五・〇〇	一八五四
	二八・五〇	三一・〇〇	一八五五	二八・五〇	三一・〇〇	一八五六
	二二・〇〇	二七・〇〇	一八五七	二二・〇〇	二七・〇〇	一八五八
	二二・〇〇	二七・〇〇	一八五九	二二・〇〇	二七・〇〇	一八六〇
	二〇・五〇	二七・〇〇	一八六一	二〇・五〇	二七・〇〇	一八六二
	二〇・〇〇	二四・五〇	一八六三	二〇・〇〇	二四・五〇	一八六四
	二二・〇〇	二四・五〇	一八六五	二二・〇〇	二四・五〇	一八六六
	二二・〇〇	二四・五〇	一八六七	二二・〇〇	二四・五〇	一八六八
	二二・〇〇	二四・五〇	一八六九	二二・〇〇	二四・五〇	一八七〇
	二二・〇〇	二四・五〇	一八七一	二二・〇〇	二四・五〇	一八七二
	二二・〇〇	二四・五〇	一八七三	二二・〇〇	二四・五〇	一八七四
	二二・〇〇	二四・五〇	一八七五	二二・〇〇	二四・五〇	一八七六
	二二・〇〇	二四・五〇	一八七七	二二・〇〇	二四・五〇	一八七八
	二二・〇〇	二四・五〇	一八七九	二二・〇〇	二四・五〇	一八八〇
	二二・〇〇	二四・五〇	一八八一	二二・〇〇	二四・五〇	一八八二
	二二・〇〇	二四・五〇	一八八三	二二・〇〇	二四・五〇	一八八四
	二二・〇〇	二四・五〇	一八八五	二二・〇〇	二四・五〇	一八八六
	二二・〇〇	二四・五〇	一八八七	二二・〇〇	二四・五〇	一八八八
	二二・〇〇	二四・五〇	一八八九	二二・〇〇	二四・五〇	一八九〇
	二二・〇〇	二四・五〇	一八九一	二二・〇〇	二四・五〇	一八九二
	二二・〇〇	二四・五〇	一八九三	二二・〇〇	二四・五〇	一八九四
	二二・〇〇	二四・五〇	一八九五	二二・〇〇	二四・五〇	一八九六
	二二・〇〇	二四・五〇	一八九七	二二・〇〇	二四・五〇	一八九八
	二二・〇〇	二四・五〇	一八九九	二二・〇〇	二四・五〇	一九〇〇

(三〇〇パーセント騰貴
通貨下落)

工業不況の原因

一一・七五 一二・七五 一八九七

一二・五〇 一三・五〇 一八九六

一二・〇〇 一四・五〇 一八九五

一二・五〇 一三・三七 一八九四

一三・七五 一五・〇〇 一八九三

一七・五〇 一七・七〇 一八九一

一八・〇〇 一〇・九〇 一八九〇

一七・〇〇 一九・二五 一八九九

一八・〇〇 二一・〇〇 一八八八

二〇・五〇 二一・五〇 一八八七

一八・二五 二〇・〇〇 一八八六

一七・七五 一八・二五 一八八五

一八・〇〇 二〇・五〇 一八八四

二二・〇〇 二六・五〇 一八八二

二二・〇〇 二六・五〇 一八八三

一九・〇〇 三〇・五〇 一八七九

二一・〇〇 三五・〇〇 一八八〇

二二・〇〇 二六・〇〇 一八八一

二二・〇〇 二六・〇〇 一八八〇

二二・〇〇 二六・五〇 一八八二

二二・〇〇 二六・五〇 一八八三

二二・〇〇 二六・五〇 一八八二

高 低 高 低

不景氣

不景氣

三〇・〇〇 三九・〇〇 一八一七

三三・五〇 六一・〇〇 一八七二

三七・〇〇 五二・〇〇 一八七三

三三・〇〇 四五・〇〇 一八七四

二九・〇〇 四一・〇〇 一八七五

二七・五〇 三四・〇〇 一八七六

二五・〇〇 二八・〇〇 一八七七

二一・五〇 二六・五〇 一八七八

一九・〇〇 三〇・五〇 一八七九

二一・〇〇 三五・〇〇 一八八〇

二二・〇〇 二六・〇〇 一八八一

二二・〇〇 二六・五〇 一八八二

二一・〇〇 二五・〇〇 一八八三

一八・〇〇 二〇・五〇 一八八四

一七・七五 一八・二五 一八八五

一八・二五 二〇・〇〇 一八八六

二〇・五〇 二一・五〇 一八八七

一八・〇〇 二一・〇〇 一八八八

一七・〇〇 一九・二五 一八八九

一八・〇〇 一〇・九〇 一八九〇

一七・五〇 一七・七〇 一八九一

一五・五〇 一七・五〇 一八九二

一三・七五 一五・〇〇 一八九三

一二・五〇 一三・三七 一八九四

一二・〇〇 一四・五〇 一八九五

一二・五〇 一三・五〇 一八九六

一一・七五 一二・七五 一八九七

一〇三パーセント騰貴

八四パーセント騰貴

十一月にペアリング兄弟商會の財政困難に起因して暫らく不景氣

七月に銀貨恐慌に起因して暫らく不景氣

四月準備金塊の不足に起因して暫らくの間不景氣

十二月ベネチエラ國宣言に起因して暫らくの間不景氣

七月金基本の脅喝に起因して暫らくの間不景氣

高 低 高 低 高 低

不景氣

不景氣

不景氣

一一・二五 一二・〇〇 一八九八

一二・一二 二五・〇〇 一八九九

一六・〇〇 二五・〇〇 一九〇〇

一五・五〇 一六・二五 一九〇一

一七・五〇 二四・八七 一九〇二

一五・八七 二四・〇〇 一九〇三

一五・〇〇 一七・六二 一九〇四

一七・二五 一九・〇〇 一九〇五

一九・〇〇 二六・五〇 一九〇六

一八・八七 二七・五〇 一九〇七

一七・〇〇 一八・七五 一九〇八

一六・五〇 一九・五〇 一九〇九

一六・〇〇 一九・五〇 一九一〇

一二二パーセント騰貴

六〇パーセント騰貴

八三パーセント騰貴十月財政恐慌に起因して不景氣の發端は建築費の高價に起因した

(完)